

◆交流学習会

漁船漁業及び魚類養殖経営講習会

與那嶺盛次

1. 目的

講習会は、水産資源の減少や輸入水産物の増加、魚価の低迷など水産業の厳しい状況に対応し、漁船漁業や魚類養殖業の健全な経営と漁業者の経営能力の向上を図るために開催された。

2. 場所及び実施日時

平成15年8月4日 沖縄市産業交流センター

3. 講師

株式会社漁協経営センター代表取締役 山本辰義。経歴：北海道の漁村に生まれ漁村で育つ昭和26年全国漁業協同組合学校卒業、同年水産庁協同組合課に勤めつつ、日本大学経済学部にて学び昭和30年卒業。東京都信漁連、全国漁業協同組合学校勤務の後、昭和38年4月漁協経営センターを創立主宰した。

現在、(株)漁協経営センター代表取締役会長として、漁協経営診断、漁業経営調査等のコンサルタント業務に従事している。全国漁業協同組合学校非常勤講師(漁協論)、水産業協同組合監査士資格試験委員(水協組経営論)。

4. 内容

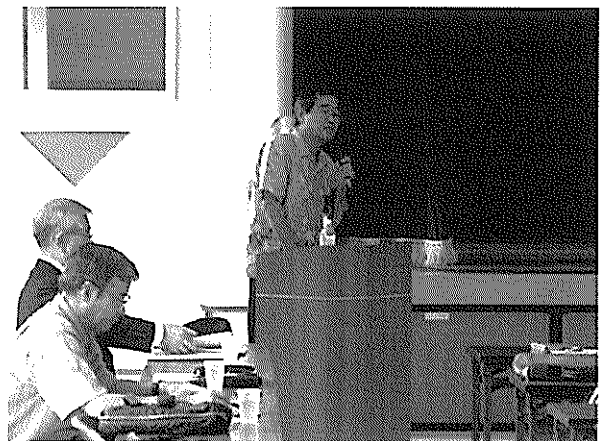
山本先生は「漁業・養殖経営の見方・考え方」と題して講演した。参加者は、漁業者等50名であった。漁業経営の三要素である漁場(資源)資本(漁船・漁具漁網・養殖施設)、労働力(技術・経営管理力)は三位一体であり、正三角形のようにバランスがとれている必要があるとアドバイスした。

また、経営の基本は、漁業にいくら投資しているか(帳簿をつけているか)、漁業取得で家計費はまかなえるか(漁業収入、漁業支出、見

積り家族労賃、家計費は把握されているか)、借入金はいくら借りていくら残っているか等を把握するところであるとした。

魚類養殖経営については、先生自身が行った「愛媛県U漁協のぶり類養殖経営実態調査」から5経営体の経営状況について具体的に紹介された。

講演後の質疑応答では、制度資金の利用方法等についての質問があった。また、平成14年度に実施した魚類養殖経営実態調査を参考にしながら、現在行われている魚類養殖の経営状況について活発な意見交換がなされた。養殖コストの削減のため餌料費を減らす必要があること帳簿をつけることの重要性が確認され、毎日記帳することは難しいことから1ヶ月領収書等を保管しまとめて記帳する方法が提案された。



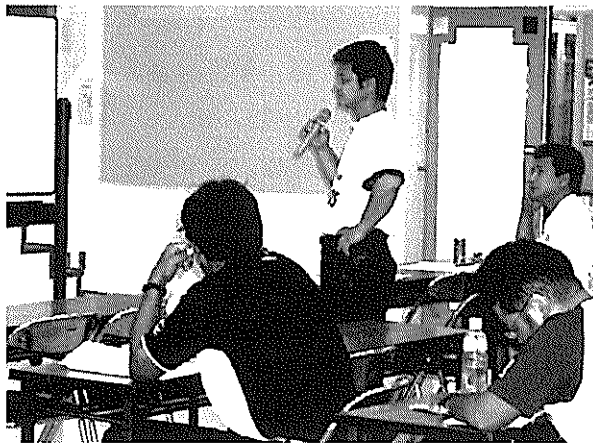
①村越正慶水産試験場長の開会挨拶



②講演中の山本辰義先生



③講演を熱心に拝聴している漁業者の皆さん



④質問に立った小嶺仁青年漁業士